2024 年 7 月 22 日

がん患者さん等の症状緩和（呼吸困難（息苦しさ））に対する薬剤の適応外使用について

【緩和ケアについて】

緩和ケアにおいては、症状緩和のために効果の期待できる様々な医薬品を使用しますが、これらの使用方法の一部は、添付文書で定められておらず、適応外使用の扱いとなります。適応外使用ではありますが、ガイドライン（WHO や日本緩和医療学会）に記載されており、緩和領域において、その使用が広く推奨されている方法です。

そのため、適応外使用である旨を、各患者さんにご説明して同意をいただく代わりに、病院ホームページにて情報を公開することとしております。

【使用する医薬品について】

緩和ケア領域では、呼吸困難（息苦しさ、呼吸に伴う不快な感覚）は、多くの場合、がんに関連する呼吸不全（呼吸器の障害で低酸素血症に陥った状態）を伴います。呼吸困難は命の危機を感ずる辛い症状です。

がんに伴う呼吸困難や呼吸不全の原因として、肺がん、肺転移、肺炎、がん性胸水、がん性リンパ管症、上大静脈症候群などがあります。これらの原因に対し治療や酸素投与をしても呼吸困難の改善が困難な場合もあります。

このような場合、適応外使用ではありますが、下記の薬剤を使用することで呼吸困難が軽減されることがあります。

・呼吸困難（息苦しさ）に対して適応外使用する薬剤

分類	薬剤名	投与方法	代表的な副作用
オピオイド	モルヒネ	経口、注射	便秘、吐き気、眠気、めまい、かゆみ、排尿障害、せん妄など
	オキシコドン	経口、注射	
	ヒドロモルフォン	経口、注射	
	コデインリン酸塩	経口	
コルチコステロイド	デキサメタゾン	経口、注射	胃痛、不眠、むくみ、満月様顔貌、倦怠感、血糖値上昇、感染症など
	ベタメタゾン	経口、注射	

【使用方法】

患者さんの状態（内服が可能かどうかなど）により、適切な薬剤の種類、その投与経路など検討しご本人（状況によりご家族など）の同意を確認した上で使用します。使用にあたっては、各薬剤の医薬品添付文書に則り、副作用発現に十分注意を払います。

【治療費について】

これらの治療にかかる費用は通常の保険診療と同じです。これらの治療による副作用が生じた場合も保険診療になります。ただし、適応外使用であることから、国の医薬品副作用被害救済制度の対象にはならない場合がありますのでご了承ください。

本医薬品の使用は、患者さんご自身の自由意思に基づくものです。希望されない場合はお申し出下さい。そのことによる不利益を被ることはありません。なお、この治療を行うことは、当院の未承認新規医薬品等評価室にて承認されています。ご質問がありましたら、いつでも遠慮なく、担当の医師、看護師または薬剤師までお尋ねください。

杏林大学医学部付属病院
医療安全管理部　未承認医薬品等評価室
代表　0422-47-5511